

牛久市議会の活性化に向けて

市民クラブを結成

われわれ「市民クラブ」は、牛久市議会のさらなる活性化に向けて、本年4月1日を期して結成いたしました。

牛久市議会は、先の「開かれた議会をめざす会」によるアンケート調査で、地方議会の公開度・活性度の評価と順位で、県内1位の評価をいただきました。

しかし、一問一答方式の未採用、執行部提案に対する修正案・付帯決議などの提出・成立もきわめて少ないなど、議会として求められる政策立案能力、監視能力、そして市民に開かれた議会などの視点から、まだまだ課題が多く、牛久市議会のさらなる活性化が求められています。

議会内第2会派となる「市民クラブ」の結成は、市議会の活性化を最



市民クラブの構成議員 と会派内役割分担

津脇 尚志	(代 表)	写真中央
黒木のぶ子	(副代表)	右 1
杉森 弘之	(幹事長)	左 1
大谷 雅彦	(政策審議委員長)	右 2
須藤 京子	(経理責任者)	左 2

会派結成の覚書

- ① 市議会の活性化のため、議会内会派を結成する。
- ② 個人の活動その他は拘束しないが、協議を深め協力し合う。
- ③ 調査研究活動を積極的に行う。
- ④ 会派選出の人事等については、その都度協議の上、決定する。
- ⑤ お互いに信義と尊敬をもって行動する。

大の目標とするものであり、関係方面との連携を強め、とりわけ市民との結合を強め、調査研究活動を積極的に行い、行動する会派として努力する決意です。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

<連絡先>

津脇 (電話 029-872-7376)

杉森 (携帯 090-5587-7693)



牛久市議会の活性化へ

今、地方の政治は大きく変わり始めています。これまで日本全国どこへ行っても同じ行政サービスが受けられた時代から、その地域の実情にあったサービスをする時代になります。何をどう決めていくのか、その過程が重要です。もっと市民の声を市政に反映するために、議会は活動する必要があります。

市民クラブは、牛久市議会の活性化のために、当面、以下の通り提案します。

1、チェック機能の強化

（１）一問一答方式の導入

一般質問・質疑の活発化が重要であり、一般質問に一問一答方式を導入する。

（２）専決処分の抑制

市長が議会に代わって意思決定を行う専決処分は、極力抑制し、厳格な対策を講じる。

（３）審議会への議員の参画抑制

議員が市長の設置する審議会等に参加することは、民主的な地方制度の趣旨に反するため、特に法令で定めのあるものを除き、議員の審議会への参画を抑制し、参画の場合は、審議内容について所管の常任委員会等への報告を義務付ける。

2、政策形成能力の強化

（１）常任委員会の活発化

常任委員会の活発化のために、①委員会所管事務について、付託案件に限らず、閉会中にも積極的に調査・議論する ②公聴会制度・参考人制度を活用する ③牛久市議会会議規則第55条第3項の「議員は、質疑に当たっては、自己の意見を述べるができない」を削除し、積極的な議論を保障する ④予算・決算特別委員会を常任委員会化する ⑤1議員の常任委員会複数所属化、を進める。

（２）全員協議会の適切な活用

全員協議会の位置づけを明確化し、議会内部の運営上の問題に限らず、市政全般に関する重要問題に対する議員相互の意見の調整、

情報の交換の場として活用を図る。他方で、市長の要請による、いわゆる議案等の事前審議型の全員協議会の開催は、議会審議の形骸化をもたらすので抑制する。

3、市民に開かれた議会

（１）市議会報告会の開催

自治体は市民の直接民主主義を土台にした二元代表制であり、議員が市民と個別に対応だけでなく、議会として正式に市民に対する議会報告会を開催する。

（２）ホームページの充実

本会議の様子を自宅で見られるよう、インターネットやケーブルテレビなどで同時放映さらに録画放映する。

（３）市議会議場の改修

傍聴席から議場を見やすくし、かつ市民に開かれた議会にふさわしく議場を改修する。

4、政治倫理の強化

（１）政治倫理条例の改正

牛久市政治倫理条例を改正し、市長と議員は、市の公共事業や物品・サービスなどの入札企業の役員、または市から運営費に関する補助金等の交付を受けている各種団体の役員への就任を禁止し、並びに禁止範囲を現在の1親等から3親等に引き上げる。

市民のための市議会とするために、市民クラブは努力を続けていきます。

市民クラブが視察研修

市民クラブは基本的に毎月、市内視察研修を実施していますが、7月14～15日、静岡県牧之原市と袋井市に視察研修を行いました。

①静岡県牧之原市

牧之原市は4年前に相良町と榛原町が合併して生まれた市で、議会改革に熱心で、またゴミの減量に取り組んでいます。

一問一答方式を採用

昨年には議会改革検討部会が設置され、一問一答方式の採用や、ヒヤリングの廃止、などを実施した他、議会基本条例の制定に向けて、先進事例の検討、条例案の制定、説明会の開催方法について議論。今年の7月には市内2ヶ所で説明会を開催し、9月議会に上程する予定です。今年3月議会では、市長提出の一般会計予算が地域間のバランスを欠くとして、否決しました。

雑紙減量大作戦

牧之原市の2006年当時のごみ処理費は約10億円、ごみ処理の内訳は可燃物が約8割で、その約5割が紙類でした。これを減らすために、雑紙をリサイクルする「雑紙減量大作戦」が開始されました。各学校、保育園、



牧之原市議会第一委員会室にて

地区に出向いて“出前環境教室”も開催し、雑紙1kg当たり3円の奨励金を出し、取り組み団体は42団体までになり、昨年度の市のリサイクル率は30%に向上し、1人当たりのごみ処理費が2800円も節約されました。

②静岡県袋井市

袋井市も4年前、袋井市と浅羽町が合併して現在の袋井市が誕生。議会改革と自主運行バス事業について説明を受けました。

本会議を同時放映

市議会は定員22名で、議会運営では、会派代表者会議、常任委員長会議、全員協議会を会議規則で正式の会議にしました。注目されるのは市民への情報公開で、本会議をインターネットによる同時放映、及び録画放映しており、ケーブルテレビでも本会議の一般質問や市長の施政方針を放送しています。

自主運行バス事業

袋井市の面積は牛久市の2倍ほどで、市内の交通手段は民間バス路線の撤退が続き、現在11路線が走っていますが、内6路線が赤字で、市は年間1600万円を補助しています。袋井市の自主運行バス事業は、4路線を計16往復便運行し、昨年度の運行経費は約5000万円。しかし、利用者は年間3万8千人、1日平均127人、1便平均8人と少なく、1人当たり1313円かかっている計算になります。

以上は、牛久市としても学ぶべきものや、牛久市として先行的に実施しているものなど、比較検討する中で参考になりました。学ぶべきものは積極的に具体化していきます。

4つの不動産問題 市民と一緒に考えます

牛久市の財政事情が厳しい中で、4つの不動産購入の問題が話題になっています。

それは、①小坂城跡 ②ひたち野うしく駅前リフレビル ③田宮西親水公園 ④東獺穴地区都市緑地、の4つです。

① 小坂城跡



小坂城跡は本年3月の定例議会で用地取得の予算が可決され、整備詳細設計、下草刈り、発掘調査で平成22年～23年に整備工事に入る予定です。

しかし、史跡指定後に急いで買収しなくても、開発が進む可能性などなかったのではないか、なぜ急いで買収しなければならなかったのか、など疑問点が浮上しています。

② ひたち野リフレビル



ひたち野うしく駅前のリフレビルは、購入費と改修費で2億8千万円、さらに5年以内に購入予定の駐車場の費用が推計5～6億円以上で、計8～9億円以上もかかります。

しかし、このビルの購入目的がはっきりしません。当初は駅前開発の柱に据えるとしていましたが、いつのまにか後退。多目的はいのですが、当初の郵便局誘致も当面無理なことが判明し、区民会館構想が前面に出てきました。しかし、構造的に音が漏れるので生涯学習センターとしては使えないようで、区民会館としても使い勝手が悪そう。

区民会館に市の財政を9億円も使うこと

が許されるのか、他にもっと合理的な代替案がないのか、などの指摘も出ています。

③ 田宮西親水公園



田宮西親水公園は本年3月の定例議会で実施設計予算が可決され、平成23年までに道路整備とあわせ完成される予定です。

雨水施設としての機能が強調されていますが、この土地もなぜ今、これほど大規模に急いで買収しなければならないのか、代替案はないのか、など検討する必要があります。

④ 東獺穴地区都市緑地



東獺穴地区都市緑地の候補予定地は、ひたち野うしく小学校の第3候補予定地とほぼ重

なります。昨年9月議会で土地の利用を調査調整するとして調査測量費が補正予算で847万円つけられましたが、目的も不明確で、これほど大規模な土地購入が、現在の厳しい財政事情で許されるのか疑問です。また、女化運動場は整備されずに放置したままであり、既存の土地の有効活用も大きな課題です。

市民クラブは、以上の問題点について、慎重に検討する必要があると考えています。市の財政は、市民の血税からなっているもので、少しのムダも許されません。まして、いずれも巨額の費用がかかるものです。市民クラブは市民の皆さんと一緒に考え、改めるべきは改めていきます。